

## ミレニアル世代をターゲットとした「マイクロ投資」アプリ

米国でミレニアル世代をターゲットにした、気軽にスマホで小銭を投資できる「マイクロ投資」アプリが注目されている。

エイコーズ社のアプリを用いると、利用者はカードで買い物をしたとき、購入金額の1ドル未満を切り上げたときの切り上げ分（たとえば購入代金が3ドル60セントだったら40セント）を自動的に投資に回すことができる。切り上げ額が累積して5ドルに達すると、利用者の銀行口座から、あらかじめ選択したリスク水準（コンサバティブからアグレッシブまで5段階のどれか）に応じて、6銘柄のETFからなるポートフォリオに投資される仕組み。利用者は、これ以外に定期的に定額を投資したり、1回限りで投資したりすることもできる。5月には、エイコーズと提携した会社で買い物すると特典としてその会社からボーナス投資してもらえるサービスも始まった。

エイコーズの狙いはアプリを通じてとにかく若者に実際に投資を体験してもらうことにあるようだ。エイコーズの共同創業者ジェフ・クラッテンデン氏によると、多くの若者は投資は大切だと頭で理解しながら、まとまった資金がない、具体的にどのように投資を始めればよいかわからない、といった理由でそこで止まっている。そこでエイコーズでは、1) 小銭を

投資できる、2) 買い物をするだけで意識せずに投資が行われる、3) 投資選択肢が非常に少なく迷う必要がない、と、何よりも心理的な負担を少なくすることを優先したという。少額でも投資を始めれば関心は高まり、投資教育の効果も上がりやすくなると期待している。

実際、2014年8月のアプリ提供開始以来、利用者は急増しており、2016年4月時点で85万口座以上に達したという。これは、ロボアドバイザーの最大手ベターメント社の18万口座と比べても4倍以上に当たる。

一方で、エイコーズの1口座当たり平均運用資産は200ドルに満たない（ベターメントは2万2,000ドル）。口座残高5,000ドル未満だと手数料が月1ドルかかるので（5,000ドル以上の場合には残高の0.25%）、口座残高が小さいと手数料率はかなり高がつき（たとえば口座残高が200ドルだと手数料率は6%）、手数料控除後では必ずしもよい投資リターンを期待できない。

では、なぜこれほど急速に口座数を獲得しているのか。それは、学生の手数料を無料とするなど、あくまで、投資の資金や経験のない若者が投資を自然に経験できる魅力的な場を提供しているためと見える。エイコーズは「まとまったお金ができたから資産運用を始める」という通念を変えようと目論んでいる。

<文責>

金融ITナビゲーション推進部

國見 和史

focus@nri.co.jp